

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

朝来市長 藤岡 勇

市町村名 (市町村コード)	朝来市 (28225)	
地域名 (地域内農業集落名)	山東町粟鹿地域 (田中)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和 6年 2月 5日 (第12回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

- ・田中区はほぼ全域にわたって圃場整備が行われていることから放棄田はない。
- ・田中区域で区民が農地を所有している者は19名で70歳以上が13名で高齢化が進んでいる。
- ・田中区域で他地区の住民が農地を所有している者は35名おり、一部耕作もしている。
- ・田中区には大規模認定農業者があることから、将来にわたって安定して農業が継続していくものとする。

(2) 地域における農業の将来の在り方

- ・田中区における米作は、有機栽培のコウノトリ米が中心となっている。
- ・また、有機の黒豆大豆栽培(6ha)が行われている。
- ・引き続き有機栽培を行うとともに、安心安全で高付加価値な作物の生産について調査研究していく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	28.59 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	23.88 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

大規模認定農業者及び若い担い手農業者を中心に今後の農地利用(集積、集約)が行われる農用地エリアを設定した。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
<ul style="list-style-type: none"> ・田中区にある大規模認定農業者には、若い後継者がいることから今後も農業は安定・継続していくものとする。 ・今後の不測の事態に対応すべく、他地区の農業経営者との連絡を密に行っていく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
<ul style="list-style-type: none"> ・現在の利用権設定及び離農などによる農地の権利設定については農地中間管理機構を活用する。
(3)基盤整備事業への取組方針
<ul style="list-style-type: none"> ・田中区は圃場整備が施工されてから50年経過しており取水施設や排水施設が老朽化している。 ・今後の農作業効率を高め持続可能な農業経営の安定化を図るうえで再圃場整備は不可欠である。 ・現在、事業化ついて区民の了解は概ね得られており、他地区も含めた事業実施に向けて朝来市と協議中である。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> ・田中区にある大規模認定農業者を主体として農業を継続していくと共に、他地区の農業者や新規就農者との意見交換や情報交換積極的に行うとともに関係機関と連携して安定した経営基盤を確立して行く。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
<ul style="list-style-type: none"> ・田中区民主体で農業を継続していく。 ・豊富な知識と経験等を有している農業協同組合と連携し地域農業をさらに発展していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨その他	

【選択した上記の取組方針】

- ①鹿・イノシシの被害対策として侵入防止柵の設置や捕獲を検討していく。
- ②コウノトリ米を主体として有機・減農薬栽培に取り組む。
- ③再圃場整備に併せてスマート農業を行う。
- ⑤ブルーベリーの栽培に取り組む。
- ⑧農業施設の新設や更新を行う。